

謹ミテ第二十師團出征中ノ軍狀ニ
就キ上奏ス

臣一郎

昭和十五年一月十一日

第二十師團長七田一郎花押

陸

軍

1110

第一 作戰ノ經過

師團ハ昭和十二年七月十一日北
支派遣ノ大命ヲ拜シ七月十八
日主力ヲ以テ天津附近ニ集中シ
支那駐屯軍司令官ノ隸下ニ入ル
七月下旬南苑ノ緒戦ニ頑敵ヲ撃
滅シ更ニ他兵團ト協力シテ平津
地方ヲ鎮定セリ
九月中旬ヨリ涿州保定會戦ニ次
グ石家莊附近ノ會戦ニ参加セリ

陸

軍

1112

十月下旬娘子關附近ノ天嶺ニ據
レル優勢ナル敵ニ殲滅的打撃ヲ
與ヘ引續キ之ヲ追撃シテ十一月
上旬太原南方地區ニ進出シ第五
師團ノ太原城攻略戰ニ協カス
昭和十三年二月十一日紀元ノ佳
節ヲ期シテ行動ヲ開始シ靈石附
近ノ堅陣ニ據レル優勢ナル敵ヲ
撃滅シ更ニ敵ヲ急追シテ長驅黃
河々畔ニ進出ス

爾後一部ヲ黃河々畔ニ駐メ主力
ヲ以テ直チニ反轉シテ山中深ク
遁入セル敵軍ヲ索メテ各地ニ之
ヲ擊滅中五月中旬優勢ナル敵軍
黃河ヲ渡河シテ曲沃附近ニ侵入
シ師團ハ近ク之ト相對峙スルニ
至リシガ七月上旬全線攻勢ニ轉
ジテ之ヲ擊破シ引續キ追撃ヲ行
ヒ七月下旬運城平地ニ進入セリ
爾來約十一箇月間運城平地ニ駐

陸

軍

屯シテ其ノ防衛ニ任ジ戰鬪討伐
及治安諸工作ニ力ヲ效シ運城平
地ノ治安ヲ概ネ確立セリ
昭和十四年六月下旬運城平地防
衛ノ任務ヲ後任兵團ニ移讓シ七
月上旬ヨリ軍ノ企圖ニ基キ翼城
東方山地ニ據レル優勢ナル敵ヲ
撃滅シ次デ困難ナル天候地形ヲ
克服シツツ澤州及高平附近ニ向
ヒ追撃ヲ敢行シ七月下旬澤州附

近ニ兵力ヲ集結ス

八月中旬澤州西方地區ニ侵入セ
ル優勢ナル敵ニ對シ豪雨ト夜暗
トヲ冒シテ之ヲ急襲包圍シ殲滅
的打撃ヲ與フ

八月下旬潞安平地ニ進入シ爾來
同平地ノ防衛ニ任ジ概ネ治安ノ
根基ヲ確立シ更ニ此ガ進展向上
ニ力ヲ效シツツアリシガ今次
大命ヲ拜シテ朝鮮ニ歸還シ目下

陸

軍

復員ノ途上ニアリ	出征間ニ於ケル綜合戦果概ネ左ノ如シ	敵ノ損害	遺棄死體 約十三萬八百	俘虜 約四千四百	我が損害	戦死 四千七百四十一(内將校百九十八)	戦病死 六百八十六(内將校 三)	戦傷 一萬三千三百七(内將校四百五十九)
----------	-------------------	------	-------------	----------	------	---------------------	------------------	----------------------

第二 部隊ノ狀況

一 將兵ハ克ク 聖諭ヲ奉體シ本次
聖戰ノ意義目的ニ關シ透徹セル
信念ヲ確握シ軍紀概ネ嚴正ニシ
テ團結鞏ク志氣昂揚シ諸種ノ困
難ヲ克服シテ一意任務ノ達成ニ
邁進セリ

二 諸隊訓練ノ程度特ニ中隊長以下
下級幹部ノ指揮技能ハ損耗ニ伴
フ補充同ヲ累ヌルニ從ヒ一般ニ

陸

軍

低下セルモ滅私奉公勇躍死ニ赴
クノ氣魄ニ於テハ消磨衰頽ヲ認
メズ概ネ所期ノ如ク戦闘ヲ遂行
シ得タリ

三兵器ハ作战遂行上遺憾ナキヲ得
タルモ累次ノ戦闘ニ因リ衰損甚
カラズ程度一般ニ低下セルヲ以
テ之ガ復舊整備ニハ一段ノ努力
ヲ要スルモノアリ

四補給給養ハ師團ノ作战地域概ネ

山嶽重疊シ交通不便ナリシヲ以
テ時ニ意ノ如クナラザリシコト
アリシモ現地物資ノ徹底的利用
ニ依リ作戰遂行上概ネ支障ナキ
ヲ得タリ
五將兵ノ健康狀態ハ概シテ良好ニ
シテ其ノ體カハ克ク氣候風土ノ
變化環境ノ不良ヲ克服シ作戰遂
行ニ支障ナキヲ得タリ
六馬匹ハ連續セル作戰行動ニ因リ

陸

軍

戰死馬ノ外多數ノ廢斃馬ヲ生セ
ルモ主トシテ現地支那馬ヲ以テ
之ヲ補填シ作戰ヲ遂行セリ
將來相當ノ整備ヲ要スルモノアリ

第三 銃後後援ノ狀況

銃後國民特ニ朝鮮官民ノ師團將
兵ニ對スル後援ハ熱烈眞摯ニシ
テ内鮮一體ノ實ヲ發揮セリ
惟フニ師團ガ二年有半ニ亘ル出征

間轉戰毎ニ衆敵ヲ撃破シテ敵軍ノ
戦力ヲ衰頽セシメタルト共ニ一般
民衆ヲシテ漸次皇軍ノ威徳ヲ敬仰
スルニ至ラシメ以テ閣外ノ重任ヲ
辱カシムルコトナキヲ得タルハ上
司ノ適切ナル指導及將兵ノ奮戦並
ニ銃後國民ノ熱烈ナル後援等ニ依
ルモノニシテ其ノ由テ來ル所ハ一
ニ御稜威ノ然ラシムル所ニシテ
洵ニ感激ノ至リニ堪ヘズ

陸

軍

ナリ	又畏クモ三度戦場ニ侍從武官ヲ差遣ハサレ優渥ナル聖旨令旨ヲ賜ハリ且御下賜品ヲ拜シ今次歸還ニ方リテハ朝鮮ニ侍從武官ヲ差遣ハサレ優渥ナル聖旨ヲ賜ハル將兵	此ノ間忠勇ナル多數ノ將兵ヲ死傷セシメ今次歸還ヲ俱ニシ能ハザルモノアラシメタルハ寔ニ痛惜ニ堪ヘザル所ニシテ深ク恐懼シアル所ナリ
----	---	--

一同 聖恩ノ有難キニ深ク感激シ
アリ

今茲ニ 天顔ニ咫尺シ奉リ軍狀ヲ
上奏スルニ方リ 臣一 郎感激ノ至
リニ堪ヘズ將來益々奮勵努力シ以テ
聖恩ニ報イ奉ランコトヲ期ス

陸

軍

